

# 佐崎紘一

アートシティさんだ研究会主催（地元作家発掘プロジェクト）



## これは芸術か、物理か。

昭和16年、父親が縫製工場を営んでいた中国・ハルビンで生まれる。間もなく始まった太平洋戦争、敗戦・引き揚げ体験が当時6歳の心に重苦しく刻まれた。その思い出を踏まえ、現代に生きて感じる心の中を、他に類を見ない独自の画風で描く。佐崎紘一の、物の理を追求する作品は、どこか物理学に似ている。

# 物理学展

10/12 (木) ▶ 17 (火)

10時～18時（最終日16時）

三田市総合文化センター 郷の音ホール 展示室にて!

入場料：前売り450円、当日500円（高校生以下と障害者手帳をお持ちの方は無料） ●問い合わせ：アートシティさんだ研究会 事務局 海野 080-3274-9788

■主催：アートシティさんだ研究会 ■後援：兵庫県、三田市、三田市教育委員会、三田市文化協会、三田市美術協会、神戸新聞社、サンテレビジョン、ラジオ関西 ■令和5年度「阪神北★夢づくり応援事業」の補助金を活用しています

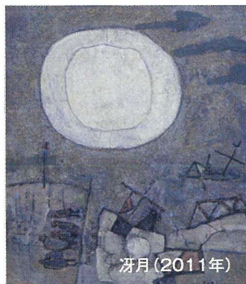




新通信時代(2010年)

## 作品原点に敗戦・引き揚げ体験。

1941(昭和16)年、父親が縫製工場を営んでいた中国・ハルピンで生まれる。間もなく始まった太平洋戦争、敗戦・引き揚げ体験が当時6歳の心に重苦しく刻まれた。ハルピンで見た巨大な太陽「夕陽」、引き揚げ野営時に見た月「冴月」などが代表作の一枚となっている。



冴月(2011年)



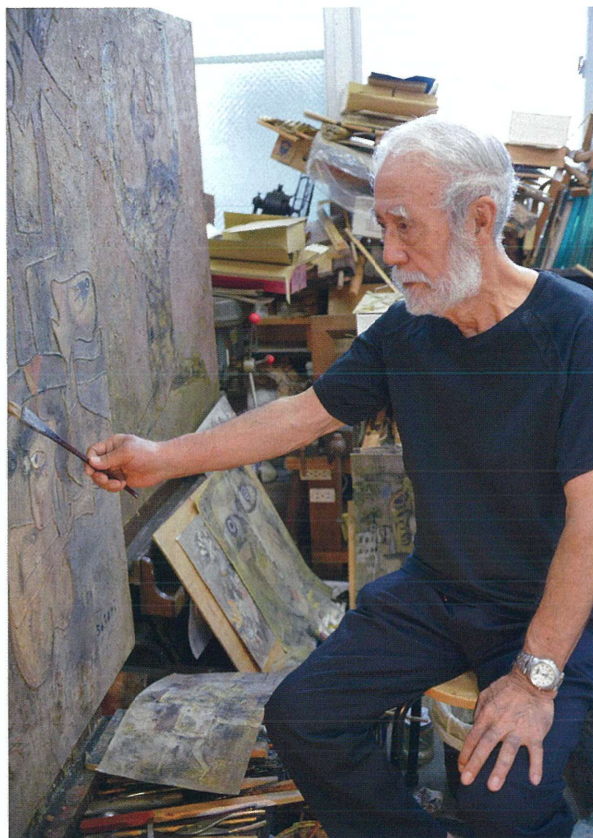
夕陽(2002年)

## 21歳でデビュー、 画業61年。

1962(昭和37)年、関西の前衛美術グループ「鉄鶏会」に所属した事をきっかけに画家として世に出た。時を同じくして「具体美術協会」が一世を風靡。前衛美術グループが、芦屋や京都を中心に耳目を集めた時代だった。1968年「鉄鶏会」解散以降は無所属で展覧会に出品するなどアート活動を続けている。



1978年、鉄鶏会メンバーの和気史郎さん(左)と本人(右端)



## 朝日カルチャー センターの講師

1982(昭和57)年から大阪の朝日カルチャーセンターで講師をし、これまで1800人を超える生徒に教えてきた。

- 佐崎 紘一 Sasaki Kouichi
- 1941年 ハルピンに生まれる
  - 1956年 美術文化協会 川元頼山氏、福沢一郎氏に学ぶ
  - 1957年 鉄鶏会クロッキー研究所参加
  - 1958年 美術文化展出品
  - 1961年 大阪画廊にて個展
  - 1962年 第5回鉄鶏会展招待出品(以後同会所属出品) 鉄鶏会10人展(大阪現代画廊)
  - 1963年 京都アンデパンダン展出品 鉄鶏会東京展(銀座・西村画廊)
  - 1966年 日本作家現代展招待出品(アメリカ巡回)
  - 1973年 吉岡一、秦森康屯、木村茂 各氏と出品(ギャラリーロコ) 西美会倶楽部にて個展
  - 1978年 吉岡一、田上博茂と三人展(ギャラリー井上)
  - 1980年 東京ギャラリーキャバシティにて個展 大阪 ギャラリー浦川にて個展
  - 1982年 大阪 サントリー文化財団にてガラス絵個展
  - 1983年 大阪 アベノ近鉄美術画廊にてガラス絵個展
  - 1986年 奈良 サラクリスタルギャラリーにて個展
  - 1990年 丸善美術にて個展
  - 1992年~1996年 阪神美術画廊にて個展
  - 1996年~2000年 アートサロンしおさきにて個展
  - 2013年 江之子島文化芸術センターにて個展 個展 35回

## 1987(昭和62)年4月30日舞台開き、 三田屋本店・有馬能楽堂の鏡松。

友人であった三田屋本店・やすらぎの郷-オーナーから緊急の依頼を受けて能楽堂の鏡松を描いた。彼は末期ガンで余命を宣告されていたのだった。日本画は描いた事が無かったが、友の夢である能楽堂完成のため全力で描きあげた。最初で最後の日本画である。



食しき食卓(2009年)

## スマホでチェック!



# 佐崎 紘一 物理学展

期間: 2023年10月12日(木)~17日(火) 10時~18時(最終日16時)

会場: 三田市総合文化センター「郷の音ホール」展示室

兵庫県三田市天神1丁目3番1号 TEL: 079-559-8100 JR宝塚線(福知山線)三田駅より、バス5分、徒歩12分

